



2022.9.11

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanironso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 40 周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定 末尾に12月までの予定記載

10月9日（日）秋の最初の手入れ

10:00 大門観察台に集合

10月23日（日）赤塚公園どん

ぐりまつり 10:00～15:00 中央地区サービス
センター前 ※雨天の場合翌週に順延

★ニリンソウを守る会は大門地区のニリンソウ自生地
などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主
活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

ニリンソウ自生地手入れの秋始まる



猛暑の8月は活動をお休みにしたニリンソウを守る会ですが、自生地の手入れシーズンを控えて、9/11は久しぶりの例会。赤塚公園サービスセンター長と東京都公園協会本社スタッフを迎えて18名が元気な姿を見せてくれました。

草刈りなどの本格的な手入れに入るのは10月に入ってからですが、この日は林の現況を見て回る観察会と10/23予定の

赤塚公園どんぐりまつりでの守る会の出し物「シュロの葉ででんでん虫」づくりの練習を行いました。

どんぐりまつりは赤塚公園友の会に参加している8団体・機関・グループが一堂に集まって、それぞれ自然のものを素材にしたモノづくり体験をしたり、写真展示などを行うイベントです。



ご参加のみ
なさまにはど
んぐりや花を
テーマにした
栞（しおり）のプ
レゼントもあ
ります。ぜひ
おいでくださ
い。



大門地区のロープ柵内、生物多様性保護エリアの草刈り たくさんの野草を生かすためのチャレンジが始まりました

ニリンソウ自生地が広がる擬木柵内の反対側の草原は、以前は人が自由に歩ける場所でしたが、3年前からロープを張って生物多様性保全エリアとしてきました。管理は、東京都からの委託を受けた東京都公園協会の本社が直接行っています。

ニリンソウ自生地は崖線の下に広がっているのですが、このような「林縁」(りんえん=林のふち)は夏場には日陰になり、冬から春にかけては落葉樹の葉が落ちて日が当たるというニリンソウが生きやすい環境になります。それは同時に、他の野草にも生きやすい環境であるので、ニリンソウ保護のためにも他の野草の生育を助けるためにも、林縁の草原を確保して生物多様性保護エリアとしてきました。エリア設置から2年間は、まずは草刈りなどを行わないで様子を観察することにしてきましたが、ただ放置するだけでは荒れ野原になるだけでした。そこで、3年目の今年は8月末から9月初旬にかけて、初めての草刈りに取り組みました。



草高 20 cmで止めた草刈り

結果は上の写真のようにかなりあっさりとなりました。でも、これでも地際すれすれに生えている草を全部刈り取るのではなく、草高 20 cmで止めて地面近くに生えている草を残す工夫を凝らした草刈りでした。スミレの仲間などは夏姿で生き残っています。ミズタマソウは刈り残しで生きています。でも、秋の花であるミズヒキやヤブタバコなどは刈り取らざるを得ませんでした。

東京都公園協会本社と赤塚公園サービスセンター、それにボランティアの守る会は、野草が展開してくる来年の春の様子を観察して、その結果を踏まえて、より良い管理法を見つけようと話し合っています。

何しろ「生物多様性保全のための草刈り」というのはこれまで実施経験がないことであり、試行錯誤を繰り返していくことになりましたが、何年か後にこのロープ柵内に東京都の準絶滅危惧種であるニリンソウ、ヤマブキソウ、ハグロソウ、ヤナギイノコズチなどが生えてくるように頑張っていきたいと思います。

秋の手入れ活動 参加者募集！ 12月までの日程

10/9、10/23（どんぐりまつり）、10/30（どんぐりまつりが雨天順延の場合は手入れ活動なし）
11/13、11/20、11/27、12/18。いずれも日曜日 10：00 大門観察台集合。雨天中止（予備日に順延）。長袖、長ズボン、運動靴など動きやすい服装でおいでください。道具はお貸しします。
手入れは一人でも多くの参加者があれば、それだけ丁寧な作業を行うことができます。
やってみたいと思う方、お気軽にお声掛けください。